



道徳だより

2026. 1. 28 号
みよし市立緑丘小学校



3年生「れいぎ正しい人」(内容項目B 礼儀)

ねらい

「礼儀正しさ」は、挨拶の言葉や行いでもあるが、挨拶がなくても、真心を込めた対応の仕方でもあることに気づき、誰に対しても心を込めて接しようとする態度を育てる。

授業の様子

めあてを「礼儀正しいとはどんなことだろうか」として提示しました。子どもたちは「礼儀正しい」というと「言葉遣いが丁寧である」「きちんと挨拶ができる」など目に見える行動について答えることができます。その行動の根本にあるのは、相手への「思い」や「敬意」であり、それらが欠けている形だけのものは礼儀とは言えません。つまり、心と形が伴って初めて礼儀正しいと言えます。3年生は礼儀について誰に対しても「心を届ける」ことに重点をおいて指導しています。

教材名「れいぎ正しい人」の概要

月曜日の朝礼で校長先生から「今月は礼儀正しい人になれるよう、心がけましょう」と言われ、まさおは、早速職員室に入るときに実行しました。「失礼します」「ありがとうございました」そばにいた先生から「おお、早速礼儀正しい子どもだな」と言われ、まさおはうれしくなりました。

その日の夕方まさおはお父さんと近くのスーパーに行きました。「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」お客様に笑顔で挨拶する店員さんを見て、まさおは、「礼儀正しい店員さんだな」と思いました。その帰り、ちょうど出口に差ししかかった時、向こうから若い男の人が、ドアを開けて入ってきました。そして、まさおたちとすれ違ったとき、その男の人は、次にまさおたちが通れるよう、自分が開けたドアをそのまま持ってくれていたのです。思わず、お父さんは男の人になっこり微笑み、「どうもありがとう」と言いました。男の人にもなっこり微笑みました。まさおはうれしい気持ちになりました。帰り道、お父さんは「見ず知らずのお父さんたちのことを思って、ドアを開けてくれた。そういうことが自然とできる人は『礼儀正しい人』なんだよ」と言いました。次の日、職員室に入ろうとしたまさおは、後ろから来た両手いっぱい荷物を持っている先生のために思わず、職員室の扉を開けました。ノックも挨拶もしなかったことを後悔します。すると昨日声をかけてくれた先生が、「ノックや挨拶がなくても、今の行動で君の気持ちは十分に先生に伝わったよ」とほめてくださいました。まさおは、昨日よりずっとうれしくなりました。

始めに、めあて「礼儀正しいとはどんなことだろうか」と問うと「正しい言葉遣い」「挨拶ができる」が出ました。教材を読んだ後、「スーパーの出口で扉をもってくれていた男の人についてどんなことを思ったのか」を問うと「優しい人だな」「親切な人だな」と答えていました。次に「お父さんはまさおにどんなことを教えたかったのか」を問いました。ペア活動を入れて一段ギアを上げたので、活発に挙手していました。「人のことを思って自然に行動する人が礼儀正しい人」「人としてよい行動ができる人」「意識せずにそうやってできる人」「挨拶だけじゃない」と相手のことを考えて行動することが「礼儀正しい」につながると分かりかけていました。最後に「次の日、先生に褒められたまさおは、どんなことを考えたのだろうか」と問うと、「自然に挨拶し、人を助けることが礼儀正しい人」「人の気持ちを考えることが大切。挨拶も大切」「人を気にかけてあげることは大事」と考えを整理でき、礼儀正しいことについての考えが少し広がった様子でした。話し合いが活発に行われたので、振り返りを書く時間がありませんでしたが、ぜひご家庭でも礼儀について話題にさせていただきたいです。

